令和 8 年度 第 1 回メタバース研究会 議事録

日時：2026 年 8 月 27 日 13:00〜14:30

1. 開会および委員紹介・近況報告

【事務局】

早速、議事に入らせていただきたいと思います。まず最初に委員紹介と言いますか、委員の皆さんそれぞれお名前等ご存知かと思いますけれども、近況報告も含めて皆さんの方から最初に一言いただければと思います。

それでは皆さんの方から一言ずつお願いできればと思います。手元の名簿の順番でお願いしたいと思います。まず増田先生、お願いできますか。

【増田 雅史 委員】

増田でございます。ご無沙汰いたしております。近況ですが、相変わらず弁護士をしておりまして、メタバースに関してですと、総務省のメタバース研究会と呼ばれていたものが「没入型技術に関する研究会」ということでリネームしていますが、引き続き関与しています。

それから内閣府の方も、戦略的イノベーション創造プログラムというプロジェクトがあるのですが、そのレビュー委員も継続して務めておりまして、そこもメタバース関係です。あとは AI 関係についても世間を賑わせておりますし、我々の生活を豊かにする技術でもあるということで常に注目しております。最近で言いますと生成 AI の書籍を出させていただいて、江口委員にもお送りしたので、お役立ていただければと思います。私からは以上です。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。では次に岡村委員、お願いします。

【岡村 岬 委員】

岡村です。よろしくお願いいたします。2025 年まで Orihime パイロットとして県のお仕事をしていました。いろいろやることがあってすごくバタバタしているんですけれども、今日その辺りのアバターとしてのお仕事に対する気持ちなども少しお話しさせていただければなと思っているので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。そしたら次は古川さんお願いできますか。

【古川 ゆりな 委員】

古川ゆりなです。横浜市の特別支援学校の中学 2 年生の 13 歳です。授業は毎日オンラインで受けています。メタバースではワールドのスタッフさんをやったり、プラネタリウムイベントを開催したりしています。よろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。そしたら次はトキワさん、お願いします。

【トキワ 委員】

皆さんご無沙汰しております。フリーライターのトキワと申します。元々プロ野球チームの公式サイトに載せる記事などを書いていたのですが、その他にもかつて神奈川県の事業でありました「ひきスタ」で編集や記事の制作などをしておりました。

最近、引きこもり当事者の方にインタビューする機会がありましたので、自主制作という形で、自分で引きこもりながら何か活動されている 4〜5 人の方にインタビューしたものを自費出版して、昨年から販売しております。中央線沿いのカルチャーっぽいお店などに置いているのですが、色々な方が手に取ってくださっているみたいで、今でも需要を感じているところです。今日はよろしくお願いいたします。

【事務局】

よろしくお願いします。では次、高野委員お願いします。

【髙野 元 委員】

皆さんこんにちは、高野元です。川崎市の 61 歳で ALS 患者です。県の共生社会アドバイザーを務めていることから、この研究会にも参加させていただくことになりました。病気になる前は、15 年以上前になりますが、ネット検索サービスやアクセス解析サービスのサービス運営をしていました。今は日本 ALS 協会の会長になってしまいまして、毎日忙しくしております。今回もよろしくお願いいたします。

【事務局】

よろしくお願いします。ありがとうございます。そしたら次は県側になりますが、江口委員お願いします。

【江口 清貴（神奈川県 デジタル担当）】

お世話になります、江口でございます。県のデジタルを担当しております。最近は災害が起きると呼び出されて現地に行って色々なことをさせられております。直近だと熊本地震に行ったりしまして、救援物資がちゃんと流れるように手配したり、高野さんのような ALS の方や障害をお持ちの方、引きこもり支援の関係の方など、避難所に連れて行くのが難しかったりする方々をデジタルを使ってどう把握しサポートするかという仕掛けを入れております。

ちょうど今、石川県で大雨災害が起きて冠水があり避難所開設で動いているため、石川県庁から手伝ってほしいと言われており、ちょっと同時並行でお話を聞いております。今日は耳だけになってしまいますが、よろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。澤アドバイザー、お願いします。

【澤 紫臣（DX 推進アドバイザー）】

デジタル戦略本部室 DX 推進アドバイザーの澤です。最近では共生推進本部関連で「ともいきゆうえんち」にて文化スポーツ観光局のｅスポーツブースを出させていただき、全盲のｅスポーツ選手とご来場いただいたご家族との対戦交流などを行いました。またｅスポーツの分野では、来年 2 月頃に橋本駅近くのショッピングセンターで共生をテーマにした大きめのイベントを予定しており、社会参加を含めた関わりを進めております。

その他、最近では南足柄市でも DX アドバイザーを務めており、市民の方々とより近い距離で足元の行政課題を見つめていけたらと思って仕事をしております。以上です。

【事務局】

ありがとうございます。次は事務局側として共生推進本部室の吉田課長からお願いします。

【吉田 信雄（共生推進本部室 人権共生担当課長）】

はじめまして。今年 4 月に共生・人権担当課長になりました吉田です。自己紹介をさせていただくと、県庁に入って 30 年ほどになりますが、大半は NPO と仕事をしており、東日本大震災の際には岩手県にボランティア活動拠点「金太郎ハウス」を作ったりしておりました。その後、青少年課で「ひきスタ」の担当もしており、トキワさんにはその節大変お世話になりました。津久井やまゆり園の事件後は、県内の重度知的障害者施設の改革を 10 年ほどやってまいりました。

今年、津久井の事件から 10 年という節目の年に共に生きる社会の理念を広める担当課長となり、今回のメタバース研究会も非常に楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。では次、青少年課の星野課長、お願いします。

【星野 珠実（青少年課長）】

お疲れ様です。青少年課の星野でございます。4 月から青少年課にまいりました。メタバースの世界は私にとって馴染みがなかった分野ですので、ぜひこの機会に勉強させていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。あと青少年課の方で事務局が何名か入っているのと、本日メタバースワールドをご紹介いただく関係で、クラスター様から田邊様、ゆずプラス様から山下様にも同席いただいております。よろしくお願いします。

2. 令和 6 年度メタバース事業の報告・振り返り

～事務局より資料に基づき説明～

3. メタバースワールドのデモンストレーション

【山下氏（ゆずプラス）】

それではクラスターの田邊様と一緒にワールドの画面共有をしながらお見せいたします。まずエントランス空間ですが、昨年度の入り口から今年度は外観を作り込み、波の音などリラックスできる音響設計としております。

【田邊氏（クラスター）】

本年度はエントランス空間にコンテンツを多数追加しております。特に今年度大きな更新点として「地域若者サポートステーション」様のコーナーがございます。毎週木曜日 15 時～16 時に横浜や川崎等の 7 拠点のスタッフ様がいらっしゃり、職業や悩みについての個別相談を行える動線を作っております。掲示板やウェブのつぶやき機能、釣りゲームなども追加しております。

【青少年課】

カフェテリアの寄木細工風の天井について補足させていただきます。昨年度の交流イベントで参加者から「神奈川らしさがない」というご意見をいただいたため、皆様のご意見を取り入れて寄木細工夫の内装をクラスター様にお願いして入れていただいた経緯がございます。

【田邊氏（クラスター）】

サポートステーション様からのご要望で、1 対 1 で個別に相談できるグランピング風の個室ブースを 2 部屋作成いたしました。スタッフのみがワープボタンで誘導でき、
他の空間の音が聞こえず波の音だけが聞こえる静かな空間で会話が可能です。
また、24 時間常駐する AI アバターを導入しており、空間の案内やボイス・テキストでのコミュニケーションが可能です。神奈川県のおすすめ情報等にも回答できます。その他、カフェのシンク内等に隠されたシラスを探してシラスのアバターに変身できるギミックも用意し、参加者同士の会話のきっかけを作っております。

【山下氏（ゆずプラス）】

続いて「海辺のつぶやき」会場ですが、一番大きな新要素として釣りゲームを実装いたしました。釣り竿を垂らしてヒットすると、神奈川県の特産物（マグロ等）が釣れる仕組みです。釣れるまでの待ち時間や、釣った後の話題作りで参加者同士の交流を促します。

【田邊氏（クラスター）】

イベントがない日でも繰り返し遊びに来ていただけるよう、釣った魚のコインで特別な釣り竿と交換できたり、コンプリートを目指せる図鑑ギミックを追加しました。シーズン 1～3 に分けて 2 ヶ月ごとに新しい魚や新しいエリア（いかだや小島）を開放していくことで、継続的に楽しんでいただける工夫をしております。

【トキワ 委員】

シーズン 2 やシーズン 3 に変わったことをユーザーに通知する仕組みはあるのでしょうか。

【田邊氏（クラスター）】

空間内での直接通知機能は現状ございませんが、弊社の公式 X（旧 Twitter）での告知や、ワールド内の上部ポップアップお知らせ、クラスターのトップページの広告枠（ピックアップ）を活用して周知していく予定です。

【青少年課】

途中から入った方でもシーズン 1 の釣りは引き続き遊べる形ですよね。

【田邊氏（クラスター）】

はい、シーズンが進んでも過去のエリアが閉鎖されるわけではなく、どんどん拡張されて全て釣れる状態になります

4. 質疑応答および意見交換

【増田 雅史 委員】

ゆるく滞在できる空間や安心感のある場所はすごく大事だなと思っておりまして、物を集める仕組みややれることを用意しておく試みは非常に素晴らしいと思います。

一点気になったのが AI アバターの挙動です。AI ですので応答に振れ幅があると思いますが、どう制御されているのでしょうか。コミュニケーションに抵抗感を持っている方が利用された際、違和感のあるコミュニケーションが行われると本サービスの信頼性にも関わりうる懸念があるため、どのようにモデレートな応答にコントロールされているのかお聞きしたいです。

【田邊氏（クラスター）】

一般的なAIをそのまま投入するのではなく、今回の「神奈川県つながり発見パークの案内人」というプロンプトを学習させております。公序良俗に反する言葉やNGワード設定はもちろん、答えづらい質問には「案内人のためお答えできません」と返すよう学習させています。

またセンシティブな相談がされた場合は直接専門のサービス窓口を案内するよう促します。基本的にはパブリックな場での案内や話し相手という役割であり、万一不適切な挙動があれば即時取り下げや知識更新が可能な体制をとっております。

【増田 雅史 委員】

運営側の意図は理解いたしました。ただ、意図と異なる使われ方をした場合にどうなるかが気になります。ユーザー自身も交わしている会話が第三者から見えていることを理解しているかという点や、1対1の個室相談室等にAIを持ち込まないかという点はいかがでしょうか。

【田邊氏（クラスター）】

1対1の個室や困りごと相談室にAIアバターを持ち込むことはございません。パブリック空間のみの配置となっております。

【増田 雅史 委員】

想定外の使われ方に対する防衛策やガイドラインについては、これから検討・協議していく段階ということですね。ぜひしっかりご相談いただくのが良いかと思います。

【澤 紫臣委員】

行政でAIを用いる場合、何でも自然言語でやり取りできる必要はなく、必要なFAQや案内を適切に行う機能に絞ることも重要です。行政から出すものとして懸念がある部分は、必要な機能に絞ってチューニングや調整を行うべきだと感じました。

【青少年課】

補足いたしますと、夜間一人でいらした際に「辛い」「しんどい」といった深いキーワードが出た場合にどう優しく応答し相談窓口を案内するか、シミュレーションや事前調整を行っております。想定外のキーワードへの対応を含め、引き続き調整を進めてまいります。

【トキワ 委員】

昨年度のメタバースフィーカで最終的に 2 名の引きこもり当事者の方が外出に至ったという報告は、本当に大きな成果であり進歩だと思います。外出できるかどうかの壁は非常に高いため、災害時の避難という点からも命を守る大きな意義があります。

また、引きこもり当事者の方が夜間に AI チャットサービスを利用してディープな相談をする傾向は実際に多いため、キーワードの調整等は非常に重要な論点だと感じました。

【事務局】

FiKA ではプログラム終了後に海岸でのオフ会を行い、約 20 年ぶりに海に来られたという方もいらっしゃいました。エンゲージメントを高める可能性を実感いたしましたので、モデル化して横展開していきたいと考えております。古川さん、感想やご意見はいかがでしょうか。

【古川 ゆりな 委員】

メタバースのラウンジで話すのは少し緊張してしまうので、「ただそこにいるだけでも OK だよ」と書いてあると参加しやすくて嬉しいです。いきなり話しかけるのは怖いので、ゲームがあったり、4 択アンケートがあったり、メッセージボードに「いいね」スタンプが押せたりすると話しかけやすいと思いました。滞在回数でスタンプを集めてバッジがもらえる仕組みも良いと思います。

【岡村 岬 委員】

メタバースを通じて多くの方が交流を広げているのは素晴しいことです。個人的な意見として、直接社会参加や就労につながる仕掛けがあると嬉しいです。私と同じ難病患者などは「社会参加したい、働きたい」という意欲がすごく強いのですが、体調に合った働き方や求人がないのが現状です。

例えばAIによる案内だけでなく、人間がアバター案内役として働く求人を県で出し、研修を行った上で障害者や当事者が案内スタッフとして就労するような仕組みを来年度以降検討できないでしょうか。

【青少年課】

非常に貴重なご提案をありがとうございます。今年度はサポートステーション様のスタッフが入るのが第一歩ですが、来年度以降は就労に役立つ講座や就労体験に近いイベントなど、アバターでの就労も含めてより就労支援に近づけるステップアップを検討していきたいと思います。

【古川 ゆりな 委員】

去年私も参加したのですが、ちょうど今「オリヒメインターンシップ」を募集しているので、ポスターやリンクで案内しても良いと思いました。

【事務局】

ありがとうございます。近隣のオリヒメカフェの話題もありますので、連携も含めて検討いたします。高野さん、お願いできますか。

【髙野 元 委員）】

毎年進化していることに感動しています。気になった点として、賑わいと一人を楽しむバランスが難しいと感じました。「20時～22時は人が集まる時間」のように人が集まる時間帯をあらかじめ設定してはいかがでしょうか。継続することで参加しやすさと安心感が生まれると思います。

【青少年課】

混雑する時間帯の表示や、集まる時間帯の設定など、クラスター様とも仕組みを検討させていただきます。

【澤 紫臣　委員）】

奥出先生が以前「単なるスペースではなく意味を持ったプレイス（場）である」とおっしゃっていたことが、機能として毎年結実してきていると感じます。その上で、メタバースをハードウェア的インフラと捉え、社会参加への道筋をどう手はず整えるかという「運営力」が本質的に重要になってきます。

【吉田 信雄（共生推進本部室 人権共生担当課長）】

メタバースの中で実際に働くという発想は大きな転換であり、目から鱗でした。身体的制限があってもやる気のある方が、メタバース内での超短時間雇用（週３時間等）で活躍できる道が開ければ、真の社会参加とリアルな場の形成につながると実感いたしました。大変学びになりました。

【星野 珠実（青少年課長）】

就労に向けたトレーニングやトライアル就労という段階的なイメージを持っておりましたが、メタバース内での実際の就労も含め、一足飛びに挑戦できる可能性を感じ期待感が高まりました。貴重なご意見をありがとうございました。

【事務局】

貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。ワールドはまもなくオープンとなりますが、開設後も改善を重ねてまいります。本日は誠にありがとうございました。